

## エレクトーン アドバイザー



### 倉沢 大樹

栃木県宇都宮市に生まれる。7歳よりピアノ、16歳よりエレクトーン、ジャズ・ピアノをはじめ。

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科、宇都宮短期大学卒業。

1993年 第30回インターナショナル・エレクトーン・フェスティバルグランプリ受賞。

1994年 宇都宮市民賞受賞。ヤマハ専属として活動開始。

1997年 フリースタイルスキー世界選手権表彰式音楽担当。

1998年 長野冬季オリンピック、スキー競技など屋外競技の表彰セレモニー演奏担当。

ウーマンズ・スイム・フェスティバル'98音楽制作と演奏担当。

2005年 長野で開催された、スペシャルオリンピックにてテーマ曲『栄光の軌跡』製作。

サントリーホール『EMIES コンサート』において、鳥山雄司氏による「ドリームオブユース」の初演演奏。

横浜国際プール「JAPAN SWIM」競技の表彰セレモニー音楽担当。

2007年 12月、CD「JAZZ IZ」をリリース&マッティング曲集「JAZZ IZ」同時発売。

2008年 アコーディオン奏者・桑山哲也氏と浜離宮朝日ホールで共演。以来、全国各地でのコンサート活動を行っている。

2015年 ステージアパーソナルシリーズ倉沢大樹Vol.3「JAZZ Addiction」発売。

2015年、2016年、東京JAZZに連続出演。

2016年 “自転車のまち宇都宮”テーマソング『WINNING ROAD』制作。

2018年 B.LEAGUE EARLY CUP 2018 KANTO オープニング曲の制作と演奏担当。米米CLUBとのジョイントで会場を盛り上げた。

2019年より笹本玲奈20thアニバーサリー・コンサート『Breath』、ホリプロ60周年記念ミュージカル・コンサート、「Musica! Showbox」などのミュージカルステージに参加。

現在は、ヤマハより作品集を出版、全国各地でのコンサートのほか、ジャズ・ピアニストとしても活動中。

宇都宮短期大学音楽科 特別講師。

大阪音楽大学・大阪音楽大学短期大学部 特任准教授。

エレクトーン演奏の場はさまざまです。今回は音楽ホールでの演奏に焦点をあて、私が心掛けている事をお伝えしたいと思います。

## 1. ホールでの良質な音環境作り

エレクトーン本体のスピーカーだけで演奏する事はほとんどありません。音量的な事もありますが、ステレオ感(音の立体感)を実感して頂くために外部スピーカーを使います。ここではスピーカーの位置、モニタースピーカー、パンニング、リバーブなどに触れてみたいと思います。

メインスピーカーの位置は、奏者の音の好みによって設置します。ジャンルによっても変わりますが、ジャズ、ポップス系などでは音のぼやけを防ぐために、ステージ手前(客席寄り)の左右に置くのが一般的です。スピーカーを追加できるのであれば、ステージ奥左右(ステージ手前のスピーカーよりもセンター寄り)に置きます。このスピーカーは演奏者のモニタースピーカーにもなります。音のバランスを考え、前方は音量を大きめで、後方は前方よりも少なめに設定します。またクラシック系プログラム中心の場合は、前方よりも後方を大きめに設定します。

また自分の音を間近で聴きたい場合は、床置きタイプのモニタースピーカーを楽器の横に置きます。ステレオで聴きたい場合は、左右の耳に合わせて2本置きますが、1本の場合は聴き易い左右どちらかの位置に設置します。この場合音声出力をモノラルにし、左右の音が1本から聴こえるように設定します。位置が決まりましたらスピーカーの角度を調整し、ボリューム、音質などの順を追ってミキサーで更に調整します。



モニタースピーカーの調整後、メインスピーカーからどのように音が出ているのかを、事前に録音したデータを流し客席で聴いてみます。ホールで演奏した場合、自宅やレッスン室またはヘッドフォンとは違って聞こえてきます。これは直接音だけではなく、ホール自体の反射音加わるためです。ホールに限らず部屋の大きさによって響きは変わりますので、実際にスピーカーから音を出してエレクtoon内の各楽器のリバーブとホールの残響をなじませるようにし、理想の音になるように設定します。(音響さんが入っている場合は、自分の音の好みや音量などをリクエストします。)

リズム系を演奏する場合、まず注意したいのはベース音です。大きなホールになればなるほど反響、残響によってベース音がぼやけます。その際エレクtoon本体のベースの音量、リバーブ、ブリリアンスなどの調整をします。

エレクtoonでは、左右のバランスや奥行きを出すために、各音色のパンニングやリバーブの設定をしています。例えばオーケストラの場合、舞台手前左手から第1バイオリン、第2バイオリン、ビオラ、チェロ、コントラバスと並んでいます。この左右を調整するのがパンニングです。そして弦楽器の奥に木管楽器、金管楽器、打楽器と並ぶのが一般的ですが、このような奥行き感を出すのがリバーブになります。この作業は事前にエレクtoon本体で済ませているので、会場のスピーカーでの音出しをした際に、イメージ通りの音像になっているかを確認します。イメージ通りではない場合は、スピーカーの位置を変えたり、楽器とスピーカーを繋いでいるミキサー内のパンの調整をします。



観客席について、観客動員人数によっては、衣類等の音の吸収による音量や響きに影響してくるため、お客様が入った事を想定し、リハーサルの時よりも音量を大きめに設定しておくと同等の音量で聴いていただけます。音響さんがいる場合は、本番の音を聴きながら調整してもらうことができますので、出来るだけ客席後方中央で調整してもらうようにします。

## 2. 視覚的な照明効果を活かして

照明が入る場合、曲に合わせた色や明るさなど演出して頂きます。事前にプログラムと曲のイメージ(色や明るさなど)を伝えます。例えば情熱的な曲であれば『明るい赤のイメージで』静かな曲であれば『青系の落ち着いた感じで』ビートの効いた曲であれば『動きのある派手な色使いで』など自分の思いを伝えます。

照明の方によっては、事前にデモ音源を提出すると、曲調に合った照明を作ってくださいます。例えば『星に願いを』でしたら満天の星をイメージしたライティング、『情熱大陸』でしたらレーザーライトなどを使った動きのある演出にさせていただいたり、視覚的に素晴らしいものに仕上げてくださいます。



エレクトーンには液晶パネルが搭載しており、演奏中の操作や必要な情報を確認するわけですが、照明の強さや角度によってパネルが光り見えづらくなってしまう場合がありますので、その日の照明のパターンを出していただいて、照明の角度や明るさを調整していただきます。

音、照明チェックが済んだら、指慣らしをしながら最終チェックをします。リハーサルで弾きすぎて本番でスタミナ切れになってしまう事もありますので、全力を出さずに体力や精神力を温存します。

### 3. 本番までの過ごし方

リハーサル後の過ごし方としては、楽屋で簡単な体のストレッチやプログラムの確認などをして本番に備えます。時間がある場合は気分転換に散歩をするなどもいいですね。

### 4. さあ本番です

ステージに立ったら客席全体を見渡し、私のために時間を空けてくださったお客様への感謝、そして楽しんでもらいたいという気持ちで演奏に臨みます。

当日の会場の空気間が良く気持ちがノってくると普段味わえないような体験、信じら

れないような良い演奏が出来ることがあります。こういった体験をすると演奏家冥利に尽きます。

また本番は生物ですので、操作や演奏ミスをしてしまったりとアクシデントがつきものです。どんな時でも冷静に対処しその後の演奏に影響しないように心を落ち着かせる『技』も必要ですね。



## さいごに

私は若い時から音楽に携わってきて、音楽の素晴らしさ奥深さを心から感じてきました。今後も皆様と音楽を共有できるコンサートを通じて、自分自身成長していければと思っています。